

『日本協会理事に就任して』

新別府病院 甲斐亮太

この度、九州協議会各県会長のご推薦を戴き、(公社)日本医療社会福祉協会理事に就任致しました。

大分県協会での理事・副会長としての任期中、九州協議会や全国会長会参加の機会を頂き、様々な議論の場に参画する中で感じた事は、将来のMSWのポジショニングを確固たるものとする為、日本協会(中央)と都道府県協会(地方)の意思疎通を図り、日本協会・都道府県協会の枠組みを超えて全国のMSWが一丸となる必要性でした。

診療報酬改訂や資格化など、私達現場のMSWにとって直接・間接的に影響のある課題を厚労省

等に意見・要望する窓口は日本協会が担っています。大切な患者やその家族・地域社会・MSW自身を守り改善する為には、現場の皆様に積極的に参画頂く事が重要です。

日本協会と都道府県協会は上下関係になく、九州各県の日本協会会員も多くはありますが、地方の声を中央に届かせる為、微力ながら精一杯努めさせて頂きたいと思っております。皆様のご協力をお願い致します。

《平成24年公開セミナーにて座長を務める甲斐さん》



***** 理事会だより *****

- 2013. 4. 4 第1回理事会 (王子クリニック) 平成25年度事業計画について
- 4. 9 第2回理事会 (大分県立病院) 平成25年度事業計画について
- 5. 8 第3回理事会 (大分県立病院) 平成25年度定期総会について/渉外活動打合せ
- 6. 6 第4回理事会 (大分県立病院) 各部活動報告/RFL/ソーシャルワーカーデイ
- 7. 11 第5回理事会 (大分県立病院) 各部進捗状況確認及び今後の計画について/ふくしまっ子
- 8. 8 第6回理事会 (大分県立病院) 各部進捗状況確認/協会規約/H26年度九州大会

役員動向

5月13日、7月1日に大分県地域リハビリテーション研究会運営部会に参加しました。今年度開催予定の研修会(7月)、学会(10月)に向けた内容の検討を行っています。他の職能団体の代表者の方々と意見交換を重ねながら、地域包括ケアシステムの構築に向け、当協会や医療ソーシャルワーカーができることを研究会の一員として学び、実践していきたいと思っております。

副会長(佐伯中央病院) 脇坂 健史

新入会者の紹介 (H25. 4~H25. 8)

- | | |
|--------------------------|---|
| ・加藤 圭一 社会医療法人関愛会佐賀関病院 | ・工藤 麻衣 別府リハビリテーションセンター |
| ・田中 志乃 介護老人保健施設おほま | ・吉田 千尋 大分県済生会日田病院 |
| ・日隈 恵里奈 大分県立病院 | ・西村 あゆみ 大分県済生会日田病院 |
| ・山田 茉由 臼杵市医師会立コスモス病院 | ・水野 佳子 医療法人社団親和会えとう内科病院 |
| ・廣岩 智成 特別養護老人ホーム瑞雲荘 | ・矢野 裕子 医療法人社団 仁泉会 畑病院 |
| ・佐藤 美紀 大分大学医学部附属病院 | ・竹野 真一郎 医療法人 鶴林会 桂林病院 |
| ・渡邊 英治 医療法人ライフサポート明和記念病院 | ・岩村 麻梨奈 医療法人社団 中津胃腸病院 |
| ・真鍋 登美子 天心堂へつぎ病院 | ・関 竜太 医療法人 堀尾会介護老人保健施設 高齢者支援センターコスモピア熊本 |
| ・玉野 緋呂子 国立病院機構別府医療センター | |
| ・羽田野 輝子 竹田医師会病院 | |
| ・安部 優子 湯布院厚生年金病院 | |
| ・八幡 美絵子 黒木記念病院 | |
| ・芝 保奈美 黒木記念病院 | |

以上、21名の方に新規入会頂きました。当協会を有効に活用頂けるよう、ご意見・ご不明な点等は遠慮なく下記事務局へ、お問い合わせ下さい。

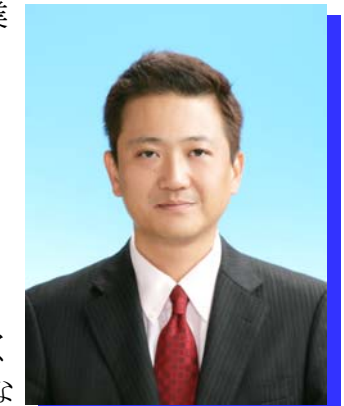


大分県 医療ソーシャルワーカー協会広報誌 vol.41

《発行元》大分県医療ソーシャルワーカー協会 平成25年8月発行

『光陰矢のごとし』

大分県医療ソーシャルワーカー協会 会長 井元 哲也



新体制で臨んだ総会から、早いもので3か月が経過しました。各事業部も事業計画にそって事業を遂行している所です。

その一つである研修部による、「初任者研修会」が去る7月13日にスタートしました。大分県協会、日本協会の活動や医療ソーシャルワーカーの歴史、専門職としての「価値と倫理」等の講義が行われました。経験年数3年未満のソーシャルワーカーを対象とした研修ですが、休日にも関わらず20名超の参加を頂きました。皆さんの熱意と向上心に頭が下がります。

研修会の冒頭で、「初任者の皆さんへ」のテーマでお話をさせて頂く事になっていましたので、自らの初任者時代(若かりし頃)を思い出しながら、資料を作成しました。

施設の介護職員から、併設の医療機関の医療ソーシャルワーカーへ異動となった私は、やる気と気合だけは人一倍で、目の前にいる患者さんやご家族に対し一生懸命向き合い、少しでも不安を軽くできないかと必死でした。所属機関では初めての医療ソーシャルワーカーの配置だった為、組織内で業務理解をして貰う事の難しさも抱えながら、とにかく「がむしゃら」だった事だけは良く覚えています。時間が経つのが早く、毎日が「アツと言う間」に過ぎて行きました。

当時の私は「がむしゃら」に走り続けながらも、頭の片隅にはいつも「本当にこの支援で良いのだろうか?他にも方法があったのではないか?他のソーシャルワーカーであればもっと良い支援ができたのではないか?」との不安がありました。

そんな中、協会の先輩からある勉強会に誘って頂きました。それまでは日常業務の忙しさを言い訳に、研修等にはほとんど参加していませんでしたが、日頃の業務で迷っている事や分からない事を聞ける良いチャンスだと捉えメンバーに加えて頂きました。その中で事例発表もさせて頂き、講師や先輩方からのアドバイスを受ける事ができました。相談できる先輩や仲間ができた事は自分にとって何よりの財産となりました。学び続ける事、それにより技術を向上させていく事は、専門職としての「義務」であると改めて認識した事を記憶しています。

「あれからもう15年以上も経つのか…」と振り返りつつ資料を作成し、初任者の皆さんにお話しさせて頂きました。

我々はクライアントやその家族に対し、最良の支援を行わねばなりません。その為には、日々の研鑽を続ける事が重要です。研修会への参加もさる事ながら、「ケースの振り返りを行う事」や、「仲間とケースについて議論をする事」等の日々の取組がとても大切だと思います。業務も多忙を極める毎日だと思いますが「光陰矢のごとし」「少年老い易く学成り難し」「一寸の光陰軽んずべからず」の諺もあります。

いつからやるか?『今でしょ!』

総会報告 & 新体制紹介

5月11日にH25年度定期総会が行われました。H24年度事業報告及びH25年度事業計画の全てが会員の方々より承認を得、井元哲也会長のもとでの大分県協会の活動がスタートとなりました。新執行部は、MSWの人材育成・会員相互の研鑽と全会員の事業参画・地域貢献と社会的認知向上の3本柱を軸に幾度も協議を重ね、以下の各部事業計画を立案しました。



《新しい理事の面々》

協会活動は会員一丸となって創り上げ続けるものです。クライアント支援からぶれない、逃げないMSWであり続ける為にも、皆さんの積極的な活動参画をお待ちしています。

副会長(湯布院厚生年金病院)松尾 美穂

【 研修部 】

研修部は、「協会主催の研修には参加したい！」と思って頂けるよう、会員皆様のニーズにお応えした研修の企画・運営を行っていきたく考えています。初任者研修(全3回)、実習指導者養成研修や公開セミナー、今年度発足した災害ソーシャルワーク研究班との合同企画の研修など、今年度も年間を通して様々な研修会の開催を予定しております。

忙しい日々の中でも今一度ソーシャルワークを振り返り、心あるよりよい支援のために、専門職として更なる専門性向上のためのお手伝いできればと思っています。

皆様の研修会へのご参加をお待ちしています。 常任理事(大分大学医学部附属病院)上條 仁美

【 学術部 】

学術部は、ソーシャルワーク実践に役立つような調査や研究を行い、その成果を還元することを目的にテーマを考え、調査・研究を行ってきました。今期は昨年度に引き続き「やりがいに関する研究」を行っています。日々、多問題を抱えた複雑なケースに遭遇したり、厳しい医療情勢の下、組織に求められる役割とソーシャルワーカーとしての意識価値との間に生じるジレンマを抱えたりしながらも、なぜ支援を続けているのでしょうか？きっと私たち自身の中に確かな「やりがい」があるからではないでしょうか。ずばり！ねらいの一つは「頑張っている自分を知る」とことです。明日からの実践にパワーが湧くことを願っています！

理事(児玉病院)本田 夕夏

【 ネットワーク推進部 】

ネットワーク推進と聞くと仰々しいですが、「まずは、身近で気軽なネットワーク作り」を目指します。役員、ベテラン、新人を問わない交流の機会を作ることから始めたいと考えています。今年から「地区委員」の専任と地区単位での「地区コミュニティー会議」(略称:地区コミ会議)を順次開催していきます。楽しく身になる…そんな集まりにしたいと思っておりますのでお気軽に参加願います。

常任理事(帰巖会みえ病院)茅野 正幸

【 災害ソーシャルワーク研究班 】

人々の暮らしは、ひとたび災害が発生すると様々な影響を受け、心身共に重大な危機にさらされます。その時、我々は人とその暮らしを支援する専門家として、能力や機能を発揮することが求められます。しかし、災害の多い国であるにも関わらず、日本では災害ソーシャルワークは殆ど体系化されてきませんでした。しかし、私たちが災害時に何を捉え、どう動くのかを考えておくことは必要です。そのための土台作りが、今、始動しました。

常任理事(別府医療センター)今尾 顕太郎

【 広報部 】

先輩方から受け継いでいる広報誌「かはら版」を発行することはもちろん、メールマガジン、ホームページ管理のほか、今年度はfacebookの立ち上げや啓蒙活動として案内リーフレットの作成を行います。離れていても協会員みなさんの思いが繋がる機会を作りたいと思います。

【公式FaceBookページ開設】

フェイスブックを新たな広報手段として活用し、理事会情報をはじめ、本協会の魅力や、旬な話題、さまざまな社会資源の紹介などを幅広く発信します。公式フェイスブックページに「いいね！」をしていただくことで、当会が配信した情報をご自身のフェイスブックにも配信されますので、ぜひご覧ください。皆様の「いいね！」をお待ちしております。

常任理事(南海病院)古木 和美



ーふくしまっ子プロジェクトIIIー

3回目となる今年は、7月23日～27日まで杵築市・別府市・宇佐市などで開催されました。当協会も実行委員として参加し、入村式には井元会長と今尾理事が出席しました。

『福島県新地町の小学生が来県し、子供たちは元気に明るく参加してくれました。しかし、教頭先生との立ち話の中で、子供たちが、転居や転職による生活再建に精一杯の親達に気を遣い、相談等ができずに傷を抱え込む例があると教えてくれました。親たちの努力を一生懸命支えようとする子供たちの頑張りにも目を向けて支えることが、私たちの役割の一つだと感じました。(今尾)』



研修報告

【実習指導者養成研修に参加して】

大分東部病院 宮川 裕美子

今回、実習指導者養成研修に参加してきました。

林先生の「ソーシャルワークの価値・倫理」の講習を受け、ソーシャルワークを行う上で最も根底となる「価値」について、改めて考えさせられました。ソーシャルワークを「価値」に基づき実践しているつもりでも、知らず知らずの内に、専門的価値判断ではなく、個人としての価値判断をしていたことはないか。自分自身のソーシャルワークを振り返ることも出来ました。

グループワーク演習の課題の中で「事例の実践をする中でどのような価値をもとにしたものか、自分の言葉で考えてください。」とありました。実習指導者は、日々行っているソーシャルワークを「言語化」することが求められます。そのためには、実習指導者自身が言語化出来るだけのスキルが必要であることを再認識したので、日々の業務に追われるだけにならないよう知識と技術の向上に努めていき、よりよい実習指導が出来るように精進していきたいと思っております。



【初任者研修に参加して】

佐賀関病院 加藤 圭一

今回の初任者研修は、別府大学 林教授、井元会長、高取監事、田嶋元会長より講義を受けさせていただきました。

現在、新人である私達はソーシャルワーカーとしての基盤を固めていく時期であり、価値・倫理というものは私達が患者様を支援していく上で、すべての基盤になるものだという事を、一日の研修を通し学ばせて頂きました。また、研修後の交流会では、現場で活躍されている多くの先輩方や、同じ初任者の方々やと触れ合い、話を聴くことができ、とても暖かく楽しい時間を過ごさせて頂きました。今回の研修と残り2回の研修で学ばせて頂くことを、自分のソーシャルワークに役立て、ステップアップしていけるよう頑張りたいと思います。

